

# 市民が主人公の 新しいまちづくりに向けて

高山市長 <sup>くに</sup> 國 <sup>しま</sup> 島 <sup>みち</sup> 芳 <sup>ひろ</sup> 明



新年あけましておめでとうございます。  
年頭にあたり謹んでごあいさつを申し上げます。

市制施行75周年にあたる昨年を振り返りますと、未曾有の国難でもある東日本大震災や福島第一原発事故をはじめ、急速な円高の進行や長引く景気・雇用情勢の悪化など、大変厳しい社会情勢でございました。

こうした先行き不透明な時世に市政をお預かりしている私といたしましては、選挙公約の「市政の主人公は市民一人ひとり」の新しい高山市を創るため、対話・市民参画・情報公開の3本柱を着実に進めつつ、将来に渡る安定的な健全財政の確保を図るとともに、攻めの対外戦略を更に加速したいと考えております。

攻めの対外戦略とは、「人・金」を呼び込み、「モノ」を売り込むため、高山市が有する観光や商工、農林畜産などの各分野に横串を刺しながら魅力を高めることと、トップによってのみ開かれる国内外の扉を開けていくことにより、その後に入っていたく市内団体や企業の皆様への道筋を作ることです。そのためにも本年は、海外戦略ビジョンを策定するとともに、国内市場に対する働きかけを一層強めてまいります。

一方で就任以来、数多くの皆様とお会いし対話する中で感じましたことの一つは、大変多くの皆様が、よりよい高山市を目指して、イメージアップ活動であったり、安全・安心なまちづく

くりへの取組みであったりと、地域の活力・活性化につながるさまざまなご努力や活動を主体的にされていることを感じたことです。純粹に地域を思う皆様の情熱に、私は目頭が熱くなるばかりでございました。

本市には力強くまちづくりに取り組む人々とその人々の熱意が多くございます。私は、その皆様の熱い思いに光を当てて後押しし、障壁に直面した時には克服するお手伝いを市職員も一丸となって取り組むことこそ、市民が主人公の新しい高山市の将来を、より光り輝かせていく原点であると確信しております。

さて、本年は「ぎふ清流国体」が開催される年でもあります。かねてから申し上げておりますとおり、国体を契機とした、競技・スポーツ力の向上と地域力の向上を目指すことで、総じて地域の振興を講じていきたいと考えております。とりわけ、昨今薄らいでいる地域の絆や連帯感を取り戻す契機にしなければならぬと感じておりますので、どうぞ皆様には、国体に向けて一丸となつていただき、本市を訪れる全国からの選手団に「高山会場は本当によかった」と思っていただけ国体にしようではありませんか。

市民の皆様におかれましては、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、新しい一年が幸多き年でありますよう心からご祈念申し上げます。年頭にあたってのごあいさつとさせていただきます。